

第3回芭蕉翁生家保存改修検討委員会議概要

■日 時／ 平成31年3月20日（水）午後1時30分～

■場 所／ 会議室404

■出席者／委員

学識経験者	菅原 洋一	三重大学名誉教授	出	委員長
	福井 健二	公益財団法人伊賀文化産業協会前専務理事	出	
伊賀市文化財 保護審議会委員 を代表する者	滝井 利彰	伊賀市文化財保護審議会委員	出	
公共的団体等を 代表する者	廣澤 浩一	一般社団法人伊賀上野観光協会	出	副委員長
	岡島 久司	公益財団法人芭蕉翁顕彰会	出	
地元住民を代表 する者	安場 豊	上野東部地域住民自治協議会理事 （上野赤坂町自治会長）	出	

関係部署職員

[伊賀市文化財課] 福島主幹

[伊賀市建築課] 森下主査

事務局

[伊賀市企画振興部] 宮崎部長、東次長

[伊賀市文化交流課] 滝川課長、藤田主幹、松本主任

■内 容

- 1 活用方法のまとめ
- 2 耐震診断結果の報告について
- 3 設計方針について
- 4 詳細スケジュールについて
- 5 その他

■概 要

1 活用方法のまとめ

- ・建物については、観覧施設とし、座敷に上がれるようにする。
 - ・土蔵で展示をする場合は、1階西側の部屋を使用する。
 - ・釣月軒には上がらず、土間から観覧する。
 - ・主屋の管理用スペースは現状のままとし、水道など管理上必要な機能は体裁を整えて設置する。
 - ・冷暖房は管理用スペースのみとする。
- ・トイレを史跡である敷地内へ設置することは望ましくないため、現在の生家駐車場がトイレ候補地となった。土地所有者へ電話確認を行ったところ、賃貸借か市へ売却かという土地の提供方法は別として、伊賀市の芭蕉顕彰事業へ協力するという前向きな回答を得た。今後の事務手続き等は、事務局で順次進める。

2 耐震診断結果の報告について

- ・敷地内の4つの建物（主屋・増築棟・土蔵・釣月軒）が、限界耐力計算による耐震診断を受けた結果は、全て不良であった。
- ・柱でゾーンに分けて、そのゾーンごとに計算を行ったところ、壁の少ない箇所については、上部構造耐力の評点が低く、数値上は倒壊する可能性が高い。
- ・基礎は玉石基礎で柱が脱落する恐れあり。
- ・水平構面についても火打的なものがないため、荷重伝達能力に疑義があると現地調査にて指摘あり。
- ・横架材、柱と梁の結合については、ほぞ差しのみで金物による固定がないため、外れる恐れあり。
- ・外壁材のうち、土壁の上に杉板張りのものは脱落しており、雨水等で土壁が流れ出す恐れあり。
- ・土壁がむき出しの箇所が多くみられる。また日本瓦の土葺である屋根材の脱落の恐れはないが、雨漏り箇所あり。

3 設計方針について

- ・1.0以上あれば安全というわけではなく、命を守り、外に退避する時間を稼ぐことができるレベルであると考える。
- ・0.7を目指す補強をするわけではない。安全性は確保できるほど良いが、現状難しい場合には、最低でも0.7は確保するをしたい。
- ・不特定多数の人が入る施設であるから、一応は安全であるというレベルにしておかなければいけない。文化財であるため、壁補強対策が十分にできない代わりに、足元や頭を固める。建物の総重量を軽くする方法が考えられる。ただ、総重量を軽くするためには、屋根をふき替えることになり実施が難しい。となれば足元を固めることと、柱と梁を固定することが実施可能な手段であると思う。
- ・補強案を見ていると、座敷まわりの仕口ダンパーによる補強箇所がまともに見える。他の場所

で補強箇所が多くても隠れるので構わないが、縁側、床の間など目に付く箇所については、設計の段階で代替案を考えることになると思う。

- ・小屋組みには、だいぶ梁を入れているので、補強について検討する必要がある。
 - ・土葺にどこまでこだわるか。特殊な瓦が使われておらず、すでに葺き替えられているのであれば、軽い瓦を使用すれば荷重を軽減できる。
 - ・本来は、できるだけ元々使われていた素材を残していくが、やむを得ず取り替えるとしても同じような材料・工法を維持していくことになる。しかし、そもそもすでに新しいものに替えられているのであれば、古いやり方でなくてもよいとも考えられる。
 - ・本来は土葺であるから土葺にしたほうがよいと思うが、土葺にして建物の中に金属補強金具をたくさん設置するのか、金属補強金具の設置数を少なくする代わりに瓦の形状を変えて土をどけることにより屋根の荷重を減らすかを検討しなければいけない。しかし、今回の補強案では、1つの想定しかしておらず、屋根を軽くしたらどうなるか等の想定がないので検討が難しい。
 - ・実際の補強については、文化財の質を保ちながら安全を確保する方法を、今後の委員会で具体的に詰めていきたい。
-
- ・最初に建てられたときはなかった通過交通の多い道路に面した塀に亀裂が入っているため、その亀裂の原因が気になる。ボーリング調査はしなくてよいと思うので、数か所でスウェーデン式サウンディング試験を行い、懸念を払しょくしておく必要があるのではないかと。
 - ・平成 31 年 4 月より行う設計業務には、部材調査と地盤調査も含める。

4 詳細スケジュールについて

- ・できるだけ早い段階で生家をオープンしたいという考えの基で作成したスケジュールのため、実際の設計段階で工期が変動する可能性はある。
- ・いつまで閉館しているのかという問い合わせをよくもらう。本年は、奥の細道 330 年の記念の年でもある。芭蕉を売り出すために色々な仕掛けを考えていきたいので、できるだけ工期を短くしてほしい。
- ・次年度の最初の委員会は 5 月末から 6 月中に開催し、外回りの整備について、工事期間中の公開について検討する。

5 その他

- ・道路側の土塀の構造についての資料はあるのか確認してほしい。